

FACULTY OF LETTERS

文学部生のリアルな！ 学生生活

Vol. 56

13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。

私の夢について

まず初めに、私が中央大学に入學した理由にもつながる私の夢についてお話しします。私は中学生の頃から学校の先生になることが夢でした。高校時代を経てもその気持ちは変わらず、教員免許が取得できる大学を志望しました。その中でご縁があり、中央大学の教育学専攻に入學しました。では、なぜこの数多くの職業の



将来の夢は学校の先生

文学部人文社会科学教育学専攻4年
東京都立国立高等学校出身

やすい けんしょう
安井 健翔

中で先生になりたいと考えたのか、その理由は中学時代の経験にさかのぼります。

恩師との出会い

私が先生に興味を持つきっかけとなったのは、中学1年生の時の経験です。当時、私はクラス内で学級委員を務め、クラスのルールを守ることに使命感を抱いていました。しかし、その過程でクラスメイトと対立し、人間関係に悩むようになり、学校に行きたくないと感じる日が続きました。ちょうどその頃、2年生に進級したタイミングで「恩師」と呼べる先生に出会いました。その先生は私の悩みを丁寧に聞き、「君ならできる」と励まし、背中を押してくださいました。そのおかげで少しずつ立ち直り、成長することができました。中学校を卒業する頃には、私もいつか恩師のような存在になりたいと強く思うようになりました。

不登校児童の支援

大学進学後、私は大きく2つのこ

とに挑戦しました。1つ目は、大学付近の小学校で不登校児童の別室登校支援を新たに始めたことです。これは、不登校児童がクラスが居場所だと感じにくい時に、私たち大学生が彼らの勉強や悩みをサポートし、学級復帰をめざすという活動です。私は中央大学ローターアクトクラブという、中央大学の学生が主体で行う奉仕団体の仲間と共にこの活動に取り組みました。

活動を始めるにあたって、多くの人からの支援や協力を賜り、無事に大学3年生の際に実現することができました。中学1年生の時に私が「こんな場所があればいいのに」と思っていたものを形にすることができたのです。これからも同じ悩みを持つている生徒のために自分にできることを積極的に進めていきたいと思っています。

白門祭実行委員として

2つ目は、中央大学の一大イベントである白門祭の実行委員として、マスコットキャラクター「はくもっ



販売している「はくもっけん」

けん」の金太郎飴の販売を始めたことです。高校時代、私は日本一の文化祭とも言われる国立高校の文化祭に参加していました。しかし、高校2年生の後期から新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、高校最後の年は思い切り文化祭に打ち込むことができませんでした。

そこで、大学では白門祭の実行委員として、多くの人に楽しんでもらいたいと意気込みメンバーに加わりました。実行委員会では新企画担当部署のリーダーとして、約15名のメンバーと共に「はくもっけん」の販売を企画しました。白門祭の公式マスコットである「はくもっけん」の認知度向上をめざし、この飴を制作・販売しました。結果は大盛況で4500個を完売し、非常に思い出深い経験となりました。今後も白門



教育実習最終日に生徒からもらった手紙



教育学専攻の实地研究で訪れた広島県で

祭で販売を続ける予定ですので、ぜひその可愛さとおいしさを体感してみてください!

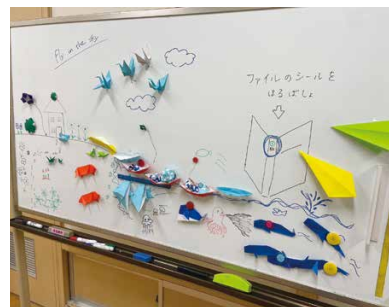
教育実習で得たもの

ここからは、私の勉強についてお話ししたいと思います。私は大学4年間を通して中学と高校の英語の教員免許取得のために学びました。教職課程のためだけに必要な単位数も多く、諦めそうになることもありましたが、諦めそうになることもありませんでした。しかし、夢のために継続し、4年生ではついに教育実習を行いました。大学で学んだことを生かし、生徒たちに楽しい授業をしようと意気込んで初めて教壇に立った時、少し恩師に近づけたような気がして胸が高鳴りました。3週間の実習期間は、目まぐるしく過ぎ去りました。多くの悩みにぶつかりながらも、周囲の先生方の温かいサポートを受け、生徒たちと多くのことを話して学べた充実の日々でした。特に、実習中

に行われた運動会では、やんちゃな生徒がクラスを引っ張る存在として成長している姿を見て、教員のやりがいを感じ、自分の夢を再確認しました。しかし同時に、実際に教師になった時に本当に生徒に影響を与えられる存在になれるのかという不安も感じました。今までに大きな挑戦や挫折をしたことがない私が伝えられることはあるのだろうかという悩み、教育実習を通して、恩師との間にまだ距離があると実感しました。

新たな挑戦と決意

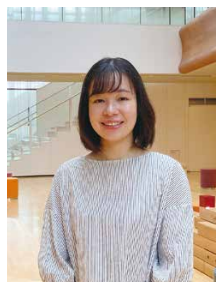
今の私の将来の夢は、子どもたち



別室登校で児童と書いた絵

の前で胸を張って「自分の夢を叶える挑戦は楽しい」「将来の可能性は無限大だ」と、自分の人生を例に語り、彼らをワクワクさせるかっこいい先生になることです。私が恩師に背中を押してもらったように、今度は私がその恩返しをしたいと考えています。そうして、将来の日本を担う子どもたちが将来にワクワクする、

そんなクラスを作りたいと思います。そのために、私は大学卒業後、社会に出てさまざまな経験を積みつもりです。自分自身が人生を楽しみ、可能性を信じることを体現したいと思っています。その過程では困難にぶつかることもあるでしょうが、夢を実現するためにこれからも仲間と共に一歩ずつ進んでいきたいと思っています。



ご挨拶と資格課程について

さ さ き ひろみ
佐々木 洋美 文学部事務室

ご父母の皆さま、はじめまして。2024年7月1日付で文学部事務室に着任しました佐々木と申します。私は2014年に入職して3年間は本誌を発行している父母連絡会事務局で勤務し、父母懇談会や「草のみどり」の発行をはじめご父母の皆さまに大学の情報を発信する業務に携りました。その後7年間は後樂園キャンパスにある中央大学高等学校事務室で勤務しておりました。中大高校の卒業生9割は中央大学へ進学しますので、卒業生の方はお気軽に声を掛けていただけると嬉しいです。

さて、文学部事務室では主に試験と資格を担当しています。今回は1月より出願を開始する4つの資格についてご紹介いたします。文学部の資格課程では次の5つの資格(①教職/②芸員/③社会教育主事/④司書/⑤司書教諭)を取得することができます。このうち、2年次以降から資格取得がめざせる②～⑤の出願手続きが1月から始まります。これらは文学部生のみならず、法・経済・商・理工・総合政策・国際情報学部の学生も資格取得をめざすことが可能です(国際情報学部生は⑤司書教諭を除く)。

2年次より資格課程を受講する場合は、1年次1月から2月中旬までに出願手続きを行い、2・3月に選抜試験を受けていただきます。詳細はC plusに掲載していますのでご子女に確認するようお願いください。2年次以上の方も、同様に選抜試験を受けて資格課程を履修することが可能です。資格課程は自身の専攻科目に加え資格科目を履修することになるため、計画的に単位取得することが大切です(一部の科目は卒業に必要な単位に含まれます)。

ご自身のキャリアを考えるうえで、関心のある方はこれらの資格取得も視野に入れてはいかがでしょうか。ご不明点や相談したいことがありましたら事務室へお気軽にお問い合わせください。ご子女の学生生活が充実したものとなりますよう、サポートさせていただきます。